
平成20年度防災とボランティアのつどい 資料集

平成20年度

防災とボランティアのつどい

2009.1.21 [WED]

内閣府主催

国立オリンピック記念青少年総合センター

センター棟102ほか（東京都渋谷区代々木神園町3-1）

<目 次>

1. 話題提供資料

(1) 全体会午前の部「被災地からの報告」	2
①岩手・宮城内陸地震に係るボランティア活動	2
②平成 20 年 8 月末豪雨水害に係るボランティア活動	3
(2) 全体会午前の部「分科会イントロダクション」	4
①分科会 1 都市型災害とボランティア活動	4
②分科会 2 ボランティア活動における安全衛生	5
③分科会 3 復興とボランティア活動	6
(3) 分科会 1 「都市型災害とボランティア活動」	7
①帰宅困難者対応訓練	7
②中央区における防災の取組み（町会・事業者など）	8
③都心部の大学生ボランティアによる災害対応訓練	9
(4) 分科会 2 「ボランティア活動における安全衛生」	11
①災害対応ゲーム「クロスロード」安全衛生編について	11
②災害ボランティア活動「目からウロコ」安全プチガイド	21
(5) 分科会 3 「復興とボランティア活動」	24
①三宅島復興支援活動	24
②岩手・宮城内陸地震に係るボランティア活動	26
③コミュニティエフエムの復興支援活動	28

2. 参考資料

(1) 近年の災害ボランティアセンター設置状況	30
①平成 20 年度に設置された災害ボランティアセンター	30
(2) 平成 20 年度防災白書（抜粋）	31

1. 話題提供資料

(1) 全体会午前の部「被災地からの報告」

①岩手・宮城内陸地震に係るボランティア活動

岩手・宮城内陸地震被災地「くりこま耕英地区」の取り組み

くりこま応援の会
(NPO法人とちぎボランティアネットワーク)
矢野正広

＊昨年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震の被災地「栗原市栗駒の耕英地区」でのボランティア活動や各種支援の課題、復興に向けて取り組みについて、概要を報告。

1. 栗原市における被災の状況

2. ボランティア活動の状況

1) 発災後の動き

2) くりこま応援の会

3) 今後の取り組み

②平成 20 年 8 月末豪雨水害に係るボランティア活動

【岡崎の被害と災害ボランティア支援活動】

トヨタ自動車株式会社

トヨタボランティアセンター

鈴木 盈 宏

◆ニーズ把握 & ボランティア派遣のアンマッチ

◆ボランティアセンター運営

◆災害から得た教訓

◆今後の課題

◆企業としての対応について

(2) 全体会午前の部「分科会イントロダクション」

①分科会 1 都市型災害とボランティア活動

NPO 法人東京いのちのポータルサイト監事
中 橋 徹 也

1. 都市型災害の特徴

- ・ 2 様な帰宅困難者・・・平日と休日では全く異なる帰宅困難者がいる
- ・ 事業者の対応・・・・・・備えている事業者、備えていない事業者
- ・ コミュニティ・・・・・・コミュニティの内と外
- ・ その他・・・・被害の様相と広がり

2. 意見交換での論点

- ・ コミュニティの対応、既存のボランティア組織の対応
- ・ 災害を専門としないさまざまな技術・資質をもったひとの存在
(リーダーシップのとれる人の存在)
- ・ 専門職・専門ボランティアとの関わり
- ・ その他

大都市での災害は阪神淡路大震災以来起きていません。その後、各地でボランティア活動や備えが行なわれてきました。その活動の成果を踏まえ、大都市災害が発生した場合にボランティア活動がどのように発生し、進んでいくのか、整理していく予定です。

②分科会 2 ボランティア活動における安全衛生

NPO 法人日本ファーストエイドソサエティ代表理事

岡野谷 純

1. ボランティア活動における安全衛生

- ・ココロもカラダも傷つけないために

2. ボランティア安全衛生研究会の取組み

- ・フォーラムの開催
- ・プチガイドの作成

3. 防災シミュレーションゲーム「クロスロード」安全衛生編づくり

- ・災害対応ゲーム「クロスロード」
- ・みんなで仕上げ、クロスロード 安全衛生編

復興とボランティア活動の議論のポイント

社団法人中越防災安全推進機構

復興デザインセンター副センター長

稲垣 文彦

1. 「支援の隙間を埋める」

制度の隙間を埋める（行政機関とボランティアの補完関係）

2. 「様々な主体をつなぎ新たな仕組みをつくる」

個人の問題を皆で考える（被災者と支援者との補完関係）

3. 「力をひきだす」

地域と地域のつながり（地域と地域の補完関係）

4. 補完関係＝win-win の関係

(3) 分科会 1 「都市型災害とボランティア活動」

①帰宅困難者対応訓練

帰宅困難者対応訓練について

東京災害ボランティアネットワーク
事務局 福田信章

1. 帰宅困難者に関わる現状
 - ・ 帰宅困難者想定数
首都圏(1都3県)で約 650 万人／東京都で約 390 万人／23 区で約 350 万人
 - ・ 東京都内では、業務・学校目的の滞留者が約 350 万人(90%)、20～59 歳の業務目的滞留者が約 250 万人(60%)と予測されている
2. 帰宅困難者に関わるいくつかの課題
(中央防災会議：首都圏直下型地震避難対策専門調査会での主な課題)
 - ・ 帰宅者数の低減(混雑緩和)
 - ・ 帰宅の円滑化
 - ・ 駅での混乱防止
 - ・ 代替交通機関による帰宅支援
 - ・ 救援活動の担い手として帰宅困難者に協力要請
 - ・ 災害時要援護者等への対応
 - ・ 必要な情報の提供
 - ・ 避難所との調整
3. 首都圏統一帰宅困難者対応訓練の実施主体
 - ・ 地域組織、行政、事業所、市民組織による連携と協働における実施
4. 首都圏統一帰宅困難者対応訓練の内容
 - ・ 訓練の特徴
 - ・ 具体的訓練内容：徒歩帰宅訓練／エイドステーション設置訓練／情報伝達訓練
5. 訓練を通じて感じたこと
 - ・ 圧倒的な想定数
 - ・ 行政区をまたぐ
 - ・ 帰宅困難者を減らす条件
 - ・ 多様な主体の参加
6. 訓練後
 - ・ 災害が起こる前に、連携・協働して取り組むことへの期待

②中央区における防災の取組み（町会・事業者など）

中央区防災課長
中島佳久

1. 中央区の取組み状況

2. 家庭・事業者の防災対策

3. 高層ビルの防災対策

4. ボランティア活動への期待

③都心部の大学生ボランティアによる災害対応訓練

自助・共助・公助による大規模な地震防災訓練を実施 -工学院大学の事例-

小島孝治氏（工学院大学工学院大学教務部事務部長）

久田嘉章氏（工学院大学建築学科教授）

濱野航平氏（工学院大学大学院生）

小菅美沙子氏（工学院大学大学院生）

大規模な地震災害に備えて

大規模地震が都市部で発生した場合、公的機関による救援や消火活動は期待できず、地震時には、まず各自が自らの安全を確保した上で、学内にいる学生と教職員が協力して、初期消火・怪我人の手当て・重傷者の搬送・閉じ込め者の救出などの応急対応、そして被害状況の確認、低層階への避難、学生・教職員の安否確認などを行うことが必要です。

また、大規模災害の直後には、交通機関の麻痺、延焼火災や治安の悪化などから大多数の学生・教職員は帰宅困難となり、数日間は学内に滞在せざるを得ない状況になると考えられます。そのため、本学が新宿の中心に位置する大学として、地域の防災拠点となることが期待されています。そこで地域の被害情報集約や駅前滞留者などへの情報伝達や誘導、傷病者や要援護者への対応、学生ボランティアの組織化や派遣など、様々な地域貢献を行う体制作りが不可欠となります。

昨年度の取組

こうした背景のもと、昨年度は2007年12月6日に本学新宿キャンパスにおいて、超高層ビル初の試みとして約1000名の教職員・学生が参加した発災対応型防災訓練を実施し、さらに2008年1月25日には新宿駅周辺の事業者・鉄道・公的機関などが連携して約1400名の駅前滞留者（うち、本学教職員約500名）の誘導訓練や要援護者の受入訓練などを行いました。

本年度の訓練概要

本年度は、2008年10月22日の13時30分から16時00分まで、本学新宿キャンパスを中心として、発災対応型防災訓練と誘導訓練・要援護者受入訓練を同時に行いつつ、さらに長距離無線LANの活用により八王子地域との広域連携を実現した大規模な地震防災訓練を実施しました。

まず、本学新宿校舎の5階以上のフロアにおいて、キャンパス点検マップに基づいた発災対応（初期消火、重傷者対応、応急救護、閉じこめ救出など）、避難、安否確認などの訓練を実施しました。

これに合わせて本学理事長・学長をトップとする災害対策本部を2階Job Station前に設置し、緊急地震速報や地震観測、避難状況把握システム、非常時通信網（長距離無線LAN）等を利用してリアルタイムに災害情報を把握し、被災全体像の把握、方針の決定、重傷者や火災、安否確認、さらに学生ボランティアによる災害時要援護者の受入、都庁議会棟ならびに新宿中央公園への学生ボランティアの派遣といった様々な対応を行うなど、発災直後を想定した緊急対応訓練を実施しました。

1階アトリウムでは応急救護所を開設し、傷病者の受入れ・自主救護活動や搬送、新宿・中野消防署・東京DMAT・東京医科大学病院・新宿消防団・学生ボランティアの協働によるトリアージ訓練を行うとともに、新宿区・東京都の職員や地域事業者が連携して現地本部を設置し、災害時優先電話や非常時通信網（長距離無線LAN）を利用して、首都圏広域の震度情報・被災状況・交通情報・JR私鉄各線の運

行情報など、様々な被災状況を入手・整理し、新宿西口地域の各事業者や駅前滞留者への情報提供などの訓練を実施しました。

これらの訓練は15時頃には終了し、その後、参加した教職員・学生は、STEC 広場および新宿校舎地下1階から5階までの各会場で初期消火・救命救護・炊き出し訓練、起震車体験、災害伝言ダイヤル(171)体験、ロープ訓練などを行いました。

一方、新宿校舎の外では学生・教職員が災害時要援護者・介護者役となり、新宿駅西口地下広場・イベントコーナーやファーストウェストビル敷地内の3ヶ所から災害時要援護者の一時受入れ施設である新宿校舎や都庁議会棟1階、広域避難場所である新宿中央公園までの避難誘導や受入れ訓練を実施しました。

これら災害時要援護者・介護者の対応を支援するため、大学の災害対策本部から学生ボランティアが一時受け入れ施設に派遣され、東京都・新宿区の職員と協働して災害時要援護者の受入や水・トイレ・災害情報の提供支援、駅周辺滞留者に対する情報伝達、災害情報の収集・伝達、仮設トイレの設置や怪我人の搬送訓練、照明設備や仮設電話機の設置、171体験なども行いました。

今後の課題

訓練としては成功したと思いますが、多くの課題が残りました。今後は文部科学省・新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムの採択事業「いのち・つなぐ・ちから」と連携して、学内の緊急時対応体制や緊急時対応マニュアルの見直し、緊急対応に必要な備品・機器類の整備、学生ボランティアの組織化と教育など、様々な地震防災対策に継続的に取り組んでいきます。

(4) 分科会 2 「ボランティア活動における安全衛生」

①災害対応ゲーム「クロスロード」安全衛生編について



「クロスロード」(市民編)

- あなたは... 母親
- 大地震後、小学校へ行っている我が子を迎えに行くが、途中で人が生き埋めになっているのを発見。他に人はいない。しかし、わが子も気になる。
- まず、目の前の人を助ける？

YES (助ける) ↔ NO (わが子優先)

「クロスロード」自分ではない誰かの立場で考えてみる

設定されていない状況は自分で想定する 母親

- 大地震後、小学校へ行っている我が子を迎えに行くが、途中で人が生き埋めになっているのを発見。他に人はいない。しかし、わが子も気になる。
- まず、目の前の人を助ける？

みんなの意見を推理し、多数派(青座布団)か、単独意見(金座布団)を狙う

YES (助ける) ↔ NO (わが子優先)

「クロスロード」とは

- 阪神・淡路大震災のときの「実話」がもとになった教材
- 文科省の研究プロジェクト」の成果物 (登録商標・2004-83439)

「クロスロード(CROSSROAD)」:

- ①重大な分かれ道、人生の岐路
- ②人と人が出会う場所、活動場所

クロスロードの基本ルール

みんなの意見を推理し、多数派(青座布団)か、単独意見(金座布団)を狙って座布団を集める

五人一組が基本 二人ペアでもOK
奇数になるように組み分けをしよう

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-1

- あなたは... ボランティアセンターのスタッフ
- 68歳の男性からボランティアの申し出。「血圧が少し高いが大丈夫」という。室内でもかなり寒い。
- 活動してもらおう？

YES (活動してもらおう) ↔ NO (活動を断る)

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-2

- あなたは... ボランティア
- オリエンテーションで現場リーダーに指名された。同じグループに酒臭い中年男性がいる。
- 一緒にグループで連れて行く？

YES
(連れて行く)



NO
(連れて行かない)

クロスノート (なぜyes? なぜno?)

---YES/NOの問題点を整理---

◆YES(連れて行く)の問題点

- ・被災者からボラセンに対する不信感を持たせる
- ・一緒に活動するボランティアに迷惑がかかる

◆NO(連れて行かない)の問題点

- ・本人の意欲を削ぐ
- ・中年男性と一緒に来たボランティア仲間の意欲が低下する
- ・マッチングさせたセンターから嫌がられる
- ・リーダーとしての資質を問われる

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-3

- あなたは... ボランティアセンターのイベント担当
- 避難所の体育館で、有名演歌歌手のイベントを企画した。被災地では風邪がはやり始めたが、住民は楽しみにしている。
- 予定どおりに実施する？

YES
(実施する)



NO
(実施しない)

クロスノート (なぜyes? なぜno?)

---YES/NOの問題点を整理---

◆YES(予定通り実施する)の問題点

- ・風邪の感染が拡大する恐れがある
- ・ボラセンの責任問題になる
- ・避難所に迷惑がかかる

◆NO(中止する)の問題点

- ・余計な心配を与える
- ・楽しみにしていた住民ががっかりする。
- ・イベントに関わったVらのモチベーションが下がる
- ・経費がむだになる
- ・イベントを通じて(公衆衛生も含めた)広報する機会を失う

クロスチャート

---判断のポイントを列挙---

- ・関係機関から適切に状況を把握する
- ・保健所や避難所の責任者と相談して合意する

◆備えの仕方の例

- ①いざという時のために関係機関との連絡網を作っておく
- ②保健所や福祉関係者とミーティングの場を設定しておく
- ③ノロウイルスの感染予防について勉強しておく(ノロは、通常の消毒用アルコールが効かない、など)
- ④住民やボランティアに、過剰な反応の防止も含め、適切な予防・対応策などについて広報をしていく

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-4

- あなたは... ボランティアセンターのコーディネーター
- センター開設2日目。「活動の様子を写真に撮りたい」とスタッフが申し出てきた。
- 撮影させる？

YES
(撮影させる)



NO
(実施しない)

クロスノート ---YES/NOの問題点を整理---	
◆YES(写真を撮らせる)の問題点 ・本部機能が滞る ・他のスタッフのモラル低下 ・一般ボランティアに誤解が生じる ・被災者からの誤解を招く	◆NO(撮らせない)の問題点 ・記録が残らない ・検証ができない ・業務の改善ができない ・安全管理が難しくなる ・一般Vから提供写真を使う場合は、Vセンとの視点が異なる。 ・著作権、肖像権の問題 ・的確な情報提供が難しくなる(HPでの発信など)

クロスチャート ---判断のポイントを列挙---
・撮影の目的が誤解無く明確に伝えられるかどうか
◆備えの仕方の例 ①記録という人の立場を、組織的に明確にし、外部からも分かるようにする(腕章、ビブスに「記録」と明記=手書きではなく、きちんと。IDカードなども欲しい) ②被災者にも、記録を残すことの重要性を理解してもらえらる仕組みを作る。(工事現場の事前、事後の撮影のような手法) ③ホームページやセンター、被災者への広報(ニーズ調査票など)で、記録の必要性を周知する ④撮影の仕方についてのガイドラインのようなものを作っておく

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-5	
□あなたは. . . . あなたは女子高校の先生	
□授業の一環で、被災地にボランティアに行くことになった。集合場所にスカート姿で来た生徒がいる。	
□バブを乗せる?	
YES (乗せる)	NO (乗せない)

クロスノート (なぜyes? なぜno?) ---YES/NOの問題点を整理---	
◆YES(連れて行く)の問題点 ・活動に相応しい服装ではない ・活動の内容が限られるため、生徒間の不公平感が出る ・思わぬけがをすることもある ・現場に対する想像力が働かない生徒が、他の事故などを起こす可能性もある ・意識がある他の生徒たちのモラルが低下する	◆NO(連れて行かない)の問題点 ・その服装でできる仕事もある ・生徒のやる気をむだにする ・体験・学習の機会が得られない ・学校側の徹底不足を生徒の責任にすることになる ・保護者から苦情が来る ・単位を付与するかどうか困る

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-6	
□あなたは. . . . あなたは避難所炊き出し班長	
□昼食で蕎麦の準備中。新聞紙にくるんだ大量の山菜が差し入れられた。	
□使う?	
YES (使う)	NO (使わない)

クロスノート (なぜyes? なぜno?) ---YES/NOの問題点を整理---	
◆YES(使う)の問題点 ・食中毒の恐れがある	◆NO(食べない)の問題点 ・善意をむだにする

「クロスロード」(災害ボランティア安全編) -7

- あなたは. . . ボランティアセンターのコーディネーター
- 避難所から余ったお弁当がボランティアセンターに届いた。

□希望者に配る？

YES
(配る)



NO
(配らない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

- ◆YES(配る)の問題点
- ・食中毒の恐れがある。
 - ・被災者向けの食事をボランティアが横取りしていると見られる。

- ◆NO(配らない)の問題点
- ・食べ物をむだにしてもったいない。
 - ・好意を無にする。
 - ・ボランティアが尊大に見られる。
 - ・ゴミを増やす。

「クロスロード」(災害ボランティア安全編) -8

- あなたは. . . 避難所支援のボランティアリーダー
- 午後4時にセンターに戻るのがルール。自治会長から夕食の手伝いを頼まれた。
- センターに戻った後、また行く？

YES
(また行く)



NO
(行かない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

- ◆YES(行く)の問題点
- ・ボラセンの管理が行き届かない。
 - ・特定の避難所だけ、勝手にやっていると批判される。
 - ・手伝いすぎると被災者自身の生活再建に向けた機会を減らすことになる。

- ◆NO(行かない)の問題点
- ・住民のニーズにこたえられない
 - ・町内会役員らの負担が軽減されない

「クロスロード」(災害ボランティア安全編) -9

- あなたは. . . ボランティア
- 現場に行くものすごいホコリ。前日もこの状況で活動していたという。
- 予定どおりに作業をする？

YES
(作業する)



NO
(作業しない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

◆YES()の問題点

・
・
・

◆NO()の問題点

・
・
・

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-10

□あなたは. . . ボランティア

□玄関前の雪かきを頼まれたが、仲間が高齢の住民を手伝おうと屋根に上ろうとしている。

□そのまま仲間を上げさせる？

YES
(上げさせる)



NO
(止める)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

◆YES()の問題点

・
・
・

◆NO()の問題点

・
・
・

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-11

□あなたは. . . あなたは被災者

□真夏の未明に地震。ライフラインが途絶えたまま夕方になり、魚屋が「もったいない」と刺身を配り始めた。

□刺身をもらおう？

YES
(もらう)



NO
(もらわない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

◆YES()の問題点

・
・
・

◆NO()の問題点

・
・
・

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-12

□あなたは. . . ボランティア

□「簡単な作業」と言われて軽装で行ったら、住民から「先に泥だしをしてくれ」と頼まれた。

□予定外の泥出し作業をする？

YES
(泥だしをする)



NO
(泥出しをしない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

◆YES()の問題点

・
・
・

◆NO()の問題点

・
・
・

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-13

- ☐ あなたは. . . ボランティア
- ☐ 粗大ごみの片付けに行ったら、ゴミ収集車にも積み込む作業をしている人がいた。
- ☐ 手伝う？

YES
(手伝う)



NO
(手伝わない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

◆YES()の問題点

・
・
・

◆NO()の問題点

・
・
・

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-14

- ☐ あなたは. . . ボランティア
- ☐ ボランティアセンターで待機中、家具運び出しの募集。力仕事の自信はない。これを逃したら、もう仕事はないかもしれない。
- ☐ 応募する？

YES
(応募する)



NO
(応募しない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

◆YES()の問題点

・
・
・

◆NO()の問題点

・
・
・

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-15

- ☐ あなたは. . . 大学生
- ☐ 恋人と海へきている。ゆっくりとしたゆれを感じた。恋人は50m先で泳いでいる。
- ☐ 知らせに行く？

YES
(知らせに行く)



NO
(行かない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

◆YES()の問題点

・
・
・

◆NO()の問題点

・
・
・

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-16

- あなたは. . . ボランティアセンターのスタッフ
- センター開設3日目。現場に行きたいというスタッフがいる。センターは目の回る忙しさ。
- それでも現場に行かせる？

YES
(行かせる)



NO
(行かせない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

◆YES()の問題点

・
・
・

◆NO()の問題点

・
・
・

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-17

- あなたは. . . ボランティアセンターのコーディネーター
- 資器材をもったボランティアグループが一般ボランティアには出来ない仕事もできると言ってきた。
- 受け入れる？

YES
(受け入れる)



NO
(受け入れない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

◆YES()の問題点

・
・
・

◆NO()の問題点

・
・
・

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-18

- あなたは. . . ボランティアセンターのコーディネーター
- 現地では、雨は降っていないが、大雨注意報が発令された。
- ボランティア作業を続ける？

YES
(続ける)



NO
(中止する)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

◆YES()の問題点

・
・
・

◆NO()の問題点

・
・
・

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-19

□あなたは. . . ボランティア

□ニーズがないのでボラセンで待機中、見知らぬボランティアから「こっちに仕事がある」と誘われた。

□ボラセン以外の仕事をする？

YES
(仕事をする)



NO
(しない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

◆YES()の問題点

.
. .

◆NO()の問題点

.
. .

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-20

□あなたは. . . ボランティア

□活動中、強い余震。被災者から「あと少しだから終わらせてほしい」と言われた。

□活動を続ける？

YES
(続ける)



NO
(続けない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

◆YES()の問題点

.
. .

◆NO()の問題点

.
. .

②災害ボランティア活動「目からウロコ」安全プチガイド

Check List 一日のはじまりに・・・

名前

緊急連絡先：自宅・実家・（ ）→（ ）
ボランティア保険の加入：済・未 ※センターで加入できることがあります
アレルギー（なし・あり（ ））
体温（出発前に計っておこう）℃ 睡眠時間（時間）
血圧（出発前に計っておこう）／
昨日お酒を飲んだ：かなり・適度に・いいえ
食欲：普段通り・低下気味・ない 朝食：食べた・食べてない
便通：よい・よくない
装備（活動により違います。持っているものに✓をつけてください）
☐ 水・飲み物（多めに） ☐ 長そで ☐ 長ズボン ☐ 安全な靴
☐ 帽子 ☐ ヘルメット ☐ ゴーグル ☐ マスク ☐ タオル
☐ 皮手袋（軍手は危険） ☐ 保険証 ☐ 常備薬 ☐ 救急セット

ボラ仙人の

うんちく

ボランティア活動は「ころざし（志）」が大切じゃ。その思いは、きっと被災した人に元気や勇気を与えることができるはずじゃ。貴重な力を最大限に発揮するために、まず始める前に、自分の体調を冷静に振り返っておくれ。上のチェックリストを書いてみればおのずと分かるはずじゃ。装備の準備もよいか？ 昔から「そなえあればうれいなし」というからのう。活動する君らも、そこに住む人たちも、安全に活動し、暮らさなければならん。仲間の体調にも気をつけて、みんな元気に帰ってくるんじゃよ。みんなを見守るボラ仙人より



メモ 今日のやる作業、本部やリーダーの連絡先、気になったことなど書いておこう！

災害ボランティア活動

目からうろこ？

安全衛生プチガイド

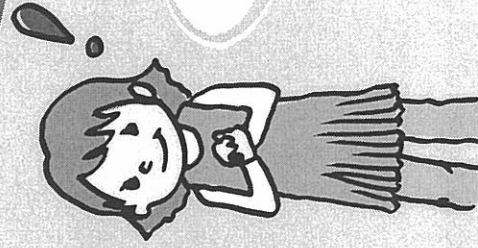
ボランティアの受け入れをしているが確認しよう！

被災地の天候を調べておこう！急に天候が変わることもあるよ。

体調はどう？調子が悪いなら行かないようにね

服装や持って行くものをきちんとそろえよう。

宿泊先は手配した？



どんな作業をするのかな？

被災地に行った人の話も聞いておこう！

1「さあ、やると!!」

まず自分の体調を見極めよう。自己過信は禁物です。
仲間や被災地の人に迷惑をかけないためにも、
調子が悪い時は、無理せずに「活動しない」も選択肢。
水分も多めに持って。ペットボトル何本持った?

2「今日のお手伝いは?」

出発前にみんなで確認。今日の仕事はやったことがある?

作業にふさわしい服装や装備は大丈夫?

作業の安全チェックポイントを書き出せた?

だれが安全担当?



3「無事に作業を進めるために」

現地についても、すぐ作業は始めない。

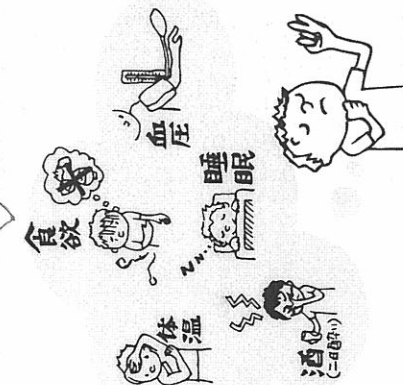
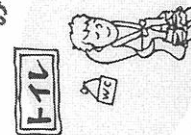
役割分担は? リーダーは誰? 危険は確認・排除した?

休憩時間は決めた? 飲み物は十分用意してある?

みんなで子エック! みんなで守ろう!!

休み時間はみんなで一斉に。作業中もトイレは大切。

水分はこまめに。あまりに暑いときは作業を休もう。



4「周りに毎々感にならう!」

夢中になると、周囲が見えなくなる?!

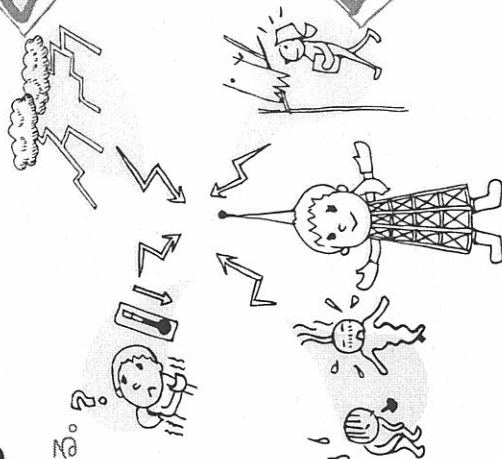
暑さはまだまだ続くかな?

天気は急変しない?

真夏の悪そうな仲間はいない?

地元の人に無理させていない?

互いに声をかけ、確認しあおう。



5「何かあったら」

ふらっ... ぼお... くらっ??

「おかしいな」と感じたら、作業をやめて、リーダーに伝えよう。

どんなに防いでもケガすることもある。

その時に何をするか、できるか、役割を決めておく

あわてないで済むね。

6「終わった後に」

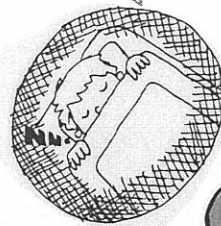
暑い気持ちをクールダウン。

活動報告にヒヤツとした経験も伝えよう。

被災地でのお酒は控えよう。

泊まるなら、明日も元気に活動するため、

ちゃんと寝るのが今日最後の仕事。



(5) 分科会3「復興とボランティア活動」

①三宅島復興支援活動

「みやけの風のなかで 私たちが得たもの ふれたもの」

東京災害ボランティアネットワーク
東京都生活協同組合連合会 生原 勇

1. 全ては「阪神・淡路大震災」から始まった

- 1996年1月7日 阪神・淡路大震災
全国生協が神戸支援 「被災地に生協あり」
以降、東京の生協は大規模災害対策に取り組む
- 1998年10月 東京災害ボランティアネットワーク設立
東京都生協連会長理事が副代表に就任会員数107（連合東京・
日本赤十字・東京YMCA・シャンティ国際ボランティア会・
東京都生協連等）

2. 三宅島雄山噴火

- 2000年6月26日 三宅島雄山噴火 降灰
6月27日 東京都との間で締結した「大規模災害時における応急生活物
資供給等に関する基本協定」発動 生活物資100点余を供給
- 9月1日 全島避難指示
以降、島民の皆さんの避難生活が始まる。
- 9月17日 東京災害ボランティアネットワーク、「三宅島災害・東京ボラン
ティア支援センター」設立 生協は副代表、運営委員として参
加、東京の生協は支援センターと共に島民の皆さんの避難生活
を支援
- 2002年8月 東京都生協連コープ災害ボランティアネットワーク設立

3. 帰島支援・復興支援

- 2004年7月20日 三宅村長 「火山ガスとの共生」をもとに05年月2月1日
避難指示解除を発表
- 2005年2月1日 帰島開始 支援センターによる帰島支援事業開始
- 8月26日 支援センターによる帰島支援事業終了
- 10月 「みやけじま<かぜの家>」設置 運営開始

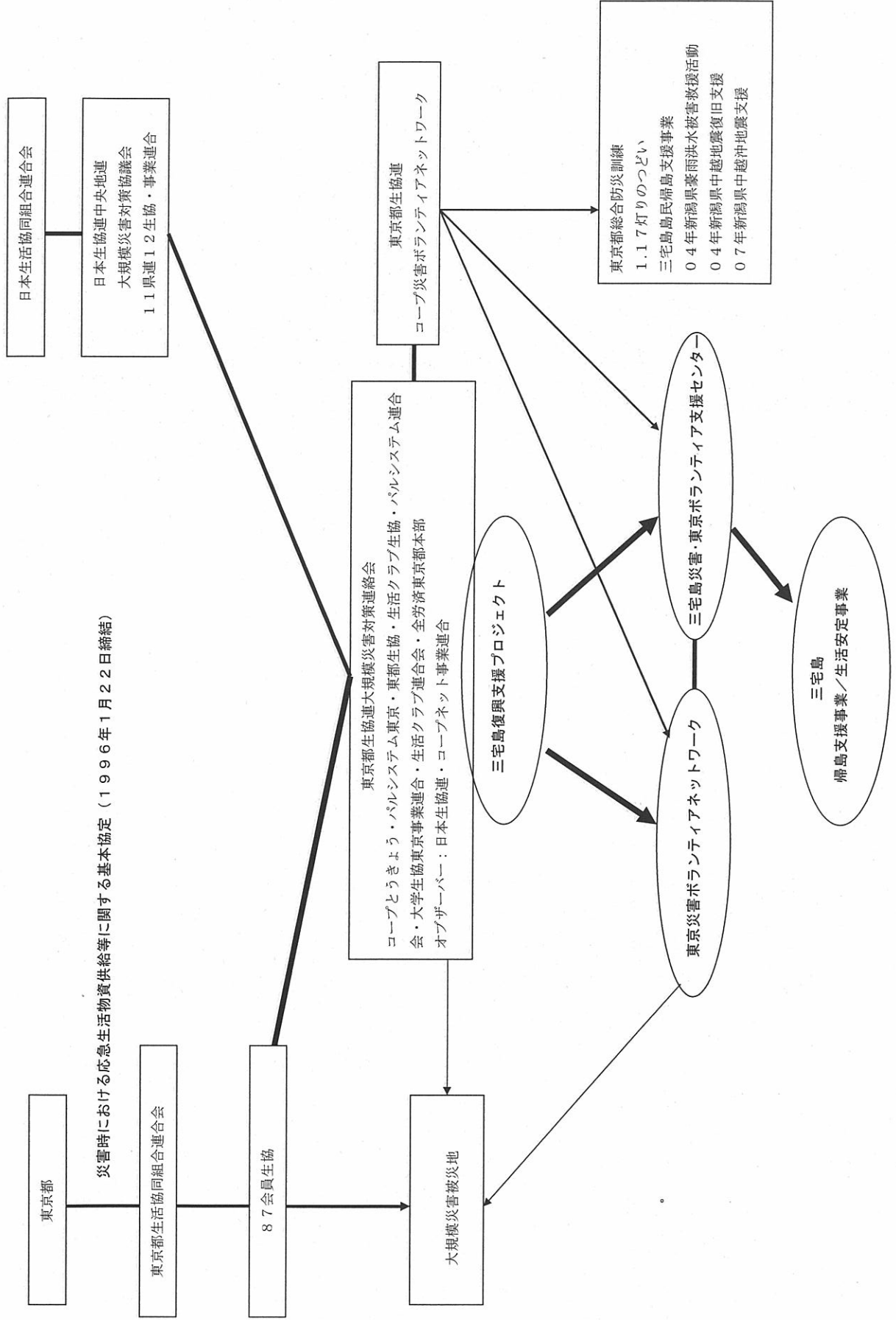
以降、東京の生協による生活支援、経済復興支援事業が継続されている。

また、三宅島復興支援をとおり、「カトリーナ」で甚大な被害を受けたニューオリンズ市当局や支援団
体、ニューヨーク市のNGOとの交流、連携が開始された。

生活協同組合の理念

「ひとりは万人のために 万人はひとりのために」

三宅島復興支援 東京都生協連大規模災害対策連絡会フローチャート



防災とボランティアのつどい

分科会③ 復興とボランティア活動

話題提供：岩手・宮城内陸地震、栗駒地区支援

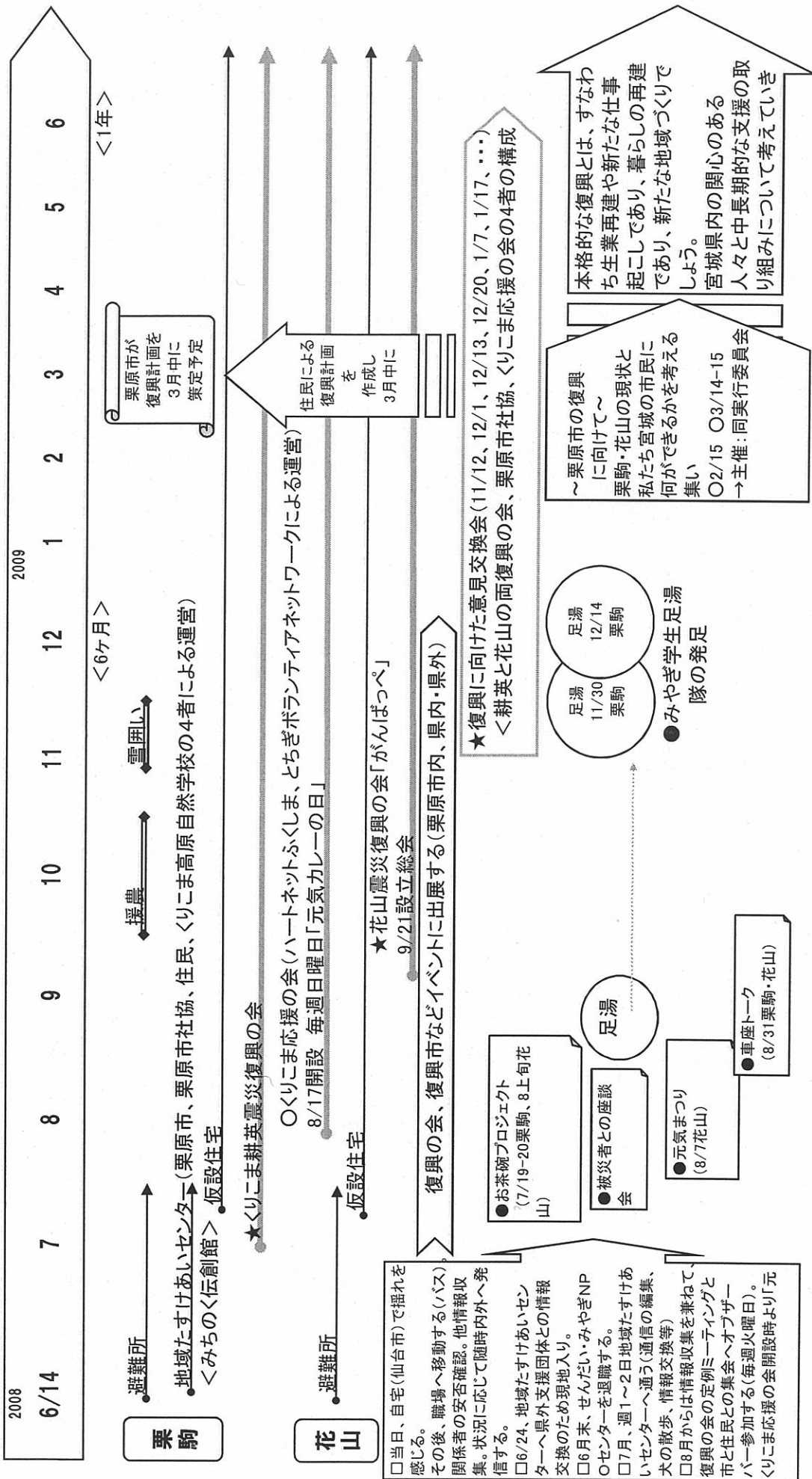
青木ユカリ

日時：2009年1月21日（水）13:00～15:00



- くりこま耕英震災復興の会 <http://koei.at/>
- 耕英.jp 復興応援サイト <http://xn--gx0ao2d.jp/top.html>
- 栗駒鸞沢商工会 <http://www.kurikoma.miyagi-fsci.or.jp/>

●花山震災復興の会 e-mail
hanayama_ganbappe@yahoo.co.jp



③コミュニティエフエムの復興支援活動

中央エフエム株式会社事業部長
藤井俊公

1. 新潟県中越地震との関わり

2. 中央区の特性

3. 中央エフエム（コミュニティエフエム）・メディアの役割

4. アンテナショップの実態

5. 都市・地方（被災地も含む）それぞれの活性化

2. 参考資料

(1) 近年の災害ボランティアセンター設置状況

①平成 20 年度に設置された災害ボランティアセンター

表 1. 設置された災害ボランティアセンター・災害時の活動一覧

(内閣府・全国社会福祉協議会等の情報／常設型センターも含む)

都道府県	センター名	時期
災害名：岩手・宮城内陸地震（6 月 14 日発生）		
岩手県	奥州市社協災害救援ボランティアセンター	6 月 20 日～7 月 31 日
宮城県	<県社協が災害ボランティアセンター設置を見送る旨を通達> 宮城県内社協からの応援体制の検討始める ・栗原市社協災害対策本部 (7/4 から災害支援本部に名称変更)	6 月 20 日～継続中
災害名：北陸地方大雨（7 月 28 日未明発生）		
富山県	・南砺市ボランティアセンター（現地対策室） <社協の通常活動で対応>	7 月 29 日～8 月 3 日
石川県	・金沢災害ボランティアセンター	9 月 1～12 日（12 日間）
平成 20 年 8 月末豪雨災害（8 月 28～29 日）		
愛知県	岡崎市災害ボランティア支援センター	8 月 29 日～9 月 7 日（10 日間）
	名古屋市災害ボランティアセンター	9 月 1～12 日（12 日間）
広島県	・（センター設置はなし）	8 月 28～29 日に V 活動あり

※ これらのほか、常設型の災害ボランティアセンターとして、京都府災害ボランティアセンターなどがある。

4 防災ボランティア活動の環境整備

(1) 近年の防災ボランティア活動をめぐる状況

災害救援、避難生活の支援、家屋の泥かきなどの復旧活動、被災地や被災者の活力を取り戻すための復興活動、災害を未然に防止し防災活動の啓発を行う予防活動など、近年、防災の様々な局面において、数多くのボランティアの方々が、自発的、自律的に、様々な主体と協働して、活発な活動を行っている。

このような活動は、例えば、古くは関東大震災時、近年でも平成2年雲仙普賢岳噴火災害や平成5年北海道南西沖地震災害などの際にもみられたが、平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、のべ130万人以上の人々が各種のボランティア活動に参加したことにより、防災ボランティア活動の重要性を改めて広く認識させるきっかけとなった。

そのため、同年7月、我が国の災害対策の基本となる防災基本計画の中に、「防災ボランティア活動の環境整備」及び「ボランティアの受入れ」に関する項目が設けられ、同年12月には、災害対策基本法が改正され、国及び地方公共団体が「ボランティアによる防災活動の環境の整備に関する事項」の実施に努めなければならないこと（同法第8条）が法律上明確に規定された（なお、「ボランティア」という言葉が、我が国の法律に明記されたのはこれが初めてのことである。）。

また、同年12月には、国民が、災害時におけるボランティア活動及び自主的な防災活動についての認識を深めるとともに、災害への備えの充実強化を図ることを目的として、「防災とボランティアの日」（毎年1月17日）及び「防災とボランティア週間」（毎年1月15日～21日）の創設が閣議了解された。これに基づき、「防災とボランティアのつどい」（内閣府）を開催する等、国や地方公共団体等は、全国各地で防災ボランティア活動に関する様々な普及・啓発活動を行っている。

昨今の大災害においては、多数のボランティアが、被災地に設置された災害ボランティアセンターを拠点に、地元の行政や社会福祉協議会等と協働して、避難所の物資配布や家屋の泥かき等の活動に参加し、被災地の大きな助けとなっている。

一方で、これまで地震活動があまり活発でなかった地域における地震（平成17年福岡県西方沖を震源とする地震）、風水害の経験が少ない地域での被害、市街地の大半が水没した例（平成16年台風第23号での豊岡市の被害）や、山間部における孤立集落の同時多発的発生（平成16年新潟県中越地震）等、近年における災害の多様な発生パターンを見ると、全国どこでも、いつ災害が起きても不思議ではない。

こうした意識のもと、防災ボランティア活動が、安全に、かつ、真に被災地にとって有効な形で行われるよう活動環境を整えていくことが重要である。

このため、内閣府では、平成17年3月より、各地の防災ボランティア関係者等からなる「防災ボランティア活動検討会」を開催し、環境整備のための検討を行うとともに、その議論の過程や成果を、適宜、ホームページに公開する等により、防災ボランティア活動に関する情報提供を行っている。

(2) 近年における防災ボランティア活動

防災ボランティア活動は、個人の自由意志に基づく自主的・自発的な活動であり、その内容や形態は様々である。また、防災ボランティア活動は、被災地における公助だけではカバーしきれないきめ細かなニーズへの対応も可能であり、労力だけでなく被災地の心の支えにもなり得る存在としても大きな役割を果たしてきている。

しかしながら、あまりに大量に、あるいは無秩序にボランティアが被災地に入ると、有効な活動につながらないばかりではなく、被災地の受入れ負担を増大させるおそれもある。

このため、刻々と変わる被災地のニーズを的確に把握し、被災地の負担増を招かずに安全に活動を継続させる仕組みづくりが重要となってきた。また、場所的あるいは日程的に偏在しがちなボランティア希望者と潜在化しがちな支援ニーズとの相互調整、それらを調整する運営スタッフの継続的な確保・引継ぎ、行政や各機関との連携等が課題となっており、これらの解決のために、より有効な防災ボランティア活動のためのしくみが求められている。

このため、近年は、被災地において、ボランティア希望者の受付の円滑化や情報発信、被災地の支援ニーズとの調整等、被災地におけるボランティア活動と情報発信の拠点となる「災害ボランティアセンター」が設置されるなど、被災地外からは、被災地の負担を軽減しつつ円滑かつ安全にボランティア活動に参加できるためのしくみとしての「ボランティアバスツアー」が実施されはじめている。

このように、ボランティア活動を希望する者の意欲を尊重し、自発性・自律性を確保しつつ、かつ、被災地の受入れ負担を軽減し、安全で有効なボランティア活動を実現するしくみづくりや知恵の共有が進みつつある。

(3) 平成19年度における防災ボランティア活動をめぐる状況

平成19年度においては、「平成19年（2007年）新潟県中越沖地震」（7月）、「平成19年（2007年）台風第9号」（9月）、「平成19年（2007年）台風第11号及び前線による大雨」（9月）等において活発な防災ボランティア活動が展開された。

また、「平成19年（2007年）能登半島地震」（3月）など過年度に発生した災害に関しても、継続して、被災地における生活支援活動や復旧・復興の支援活動が活発に展開された。

内閣府においては、近年の災害の関係者等も含めた形で「防災ボランティア活動検討会」を開催し、その内容や成果をホームページで公表した。また、近年の防災ボランティア活動、特に災害ボランティアセンターの活動状況等を把握するために「平成19年度災害ボランティアセンター調査」等を実施し、その調査結果は、逐次、ホームページで公開している（<http://www.bousai-vol.jp/hint/H19-volacen.pdf>）。

地域においては、近年相次いだ災害の教訓を踏まえ、ボランティア関係者と行政、社会福祉協議会、自治会、大学・大学生等が、よりよい復興のあり方や次の災害に備えるため行動等について意見交換したり、大規模な図上訓練を実施するなど、災害時以外の、事前の予防・啓発活動や、長期的な復興局面における防災ボランティア活動の広がりや活発化が注目される。

【注目される活動例】

- 被災地への支援活動を行うだけでなく、子どもも参加する防災ミュージカルの制作など地域に根ざした防災に関する普及啓発活動にも取組むなど、災害予防に向けた活動も含め、より幅広い者が参加した防災への取組みが見られた。
- 避難所や仮設住宅の集会所を定期的に訪問し、お茶やお菓子を取りながら気軽に話せる茶話会や手足のマッサージなども行う足湯を提供する活動を実施するなどして、被災者のお話に耳を傾ける被災者に寄り添うボランティア活動が行われ、きめ細やかなニーズの把握等につながった。
- 防災ボランティア活動に係る安全衛生に関し、防災ボランティア活動関係者により、継続的に検討が行われ、その成果を元にフォーラムを開催し、更に、DVDやリーフレットを制作した。このリーフレットは、新潟県中越沖地震災害に伴い設置された災害ボランティアセンターにおいて、実際に活用された。

表3-4-1 平成19年度に活動した災害ボランティアセンター

災害名	都道府県	市町村	名 称	活動期間	活動 日数 (日)	活動者数 (のべ人数)
「平成19年能登半島地震」災害	石川県	穴水町	穴水町災害ボランティア現地本部	3/26(月)～5/31(木)	66	2,643
	石川県	七尾市	七尾市ボランティアセンター	3/26(月)～5/9(水)	44	180
	石川県	—	石川県社協災害ボランティア対策本部	3/27(火)～継続中	—	—
	石川県	輪島市	輪島市災害ボランティアセンター門前	3/28(水)～5/27(日)	60	10,754
	石川県	輪島市	輪島市災害ボランティアセンター輪島	3/30(金)～5/25(金)	57	1,751
「平成19年新潟県中越沖地震」災害	新潟県	—	新潟県災害救援ボランティア本部	7/16(月)～継続中	—	—
	新潟県	柏崎市	柏崎市災害ボランティアセンター	7/16(月)～9/18(火)	64	19,926
	新潟県	刈羽村	刈羽村災害ボランティアセンター	7/17(火)～9/2(日)	47	6,034
	新潟県	出雲崎町	出雲崎町災害ボランティアセンター	7/17(火)～7/29(日)	12	384
	新潟県	柏崎市	柏崎市災害ボランティアセンター西山支所	7/21(土)～9/10(月)	51	1,948
平成19年「8月30日からの大雨」災害	島根県	隠岐の島町	隠岐の島町災害ボランティアセンター	9/10(月)～10/1(月)	22	15
「平成19年台風第9号」災害	群馬県	南牧町	南牧村災害ボランティアセンター	9/13(木)～9/23(日)	11	53
「平成19年台風第11号及び前線による大雨」災害	秋田県	—	秋田県災害ボランティア支援センター	9/21(金)～継続中	—	—
	秋田県	北秋田市	北秋田市災害ボランティアセンター	9/21(金)～9/30(日)	10	1,268

※本表掲記の内容は、内閣府防災担当が実施した「平成19年度災害ボランティアセンター調査」の結果によるものであり、平成20年2月25日現在の状況を取りまとめたものとなっている。

表3-4-2 ボランティア活動内容の例

地震災害の場合	
■避難生活支援関係	■家屋等の片付け関係
・救援物資の運搬、配布等	・土堀の撤去
・避難所の清掃	・ガレキの片付け
・高齢者の話し相手、子どもの遊び相手	・家具等の片付け
・チラシ配り ^{注1)}	・清掃
・ニーズ調査 ^{注2)}	・家屋からの災害ごみの搬出
・仮設住宅への引越し など	・障子貼り など
水害の場合	
・家屋周辺の土砂や流入物の撤去、床下の泥出し、ごみの運び出し	

(注1) 被災された方々に対する余震、二次災害、生活基盤の復旧などに関する情報の提供

(注2) 被災された方々に対しての支援してほしい事項の聞き取り(足湯や茶話会の際の会話などを通じて行われた例もみられた)

※本表掲記の内容は、内閣府防災担当が実施した「平成19年度災害ボランティアセンター調査」の結果によるものである

- 企業が中間支援団体等を通じて、コピー機、ファックス、パーソナルコンピュータなどの事務機器、携帯電話や業務用無線機などの通信機器、自動車等を提供し、被災地におけるボランティア活動において活用される例がみられた。
 - 地域内外のボランティア関係者、行政、各種団体等の協働により、東海地震を想定した大規模な図上訓練が継続的に実施されており、市町村災害ボランティアセンターに対する県内、隣接県、更に、全国からの広域的な支援に関する検討が着実に進みつつある。
- など

(4) 防災ボランティア活動を広める場としての「防災とボランティアのつどい」の開催

一般国民に対する防災ボランティア活動の理解促進、防災ボランティア活動や自主的な防災活動の重要性を広めるため、防災ボランティア週間に合わせ平成20年1月15日（火）から21日（月）までの1週間、東京都千代田区において、平成19年度「防災とボランティアのつどい」を開催した。

会場では、普段、地域において、さまざまな形で行われている自主的な防災活動やボランティア活動に関する展示が関係団体等によって行われた。

また、平成19年に起きた災害の被災地で行われたボランティア活動や企業も含む自主的な防災活動を、実際に活動に携わった方々から紹介いただいた。

ここでは、コンピュータネットワーク上での仮想社会を活用し、①時間と空間を超えた参加機会を提供する、②全員参加型の語り合える空間の創出を目指すなどの新機軸を打ち出し、泉防災担当大臣も参加して開催した。



(参加者と対話する泉防災担当大臣)

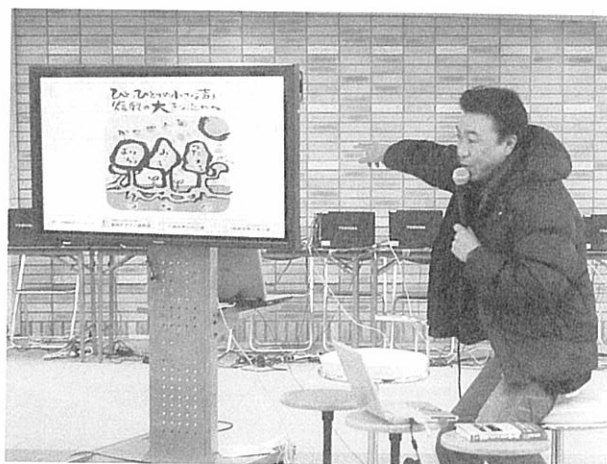


(会場のようす)

【紹介した事例】

- 能登半島地震の被災地において展開されている、特産や観光を通しての復興に向けた取り組み
- 平成16年新潟県中越地震被災地から、新潟県中越沖地震・能登半島地震の被災地へ向け、自らの復興への取り組み・経験を踏まえ、行われている支援
- 被災地におけるボランティア活動の経験などを活かし、身近な場所で容易に入手でき、それでいて災害時に役立つ各種のグッズやツールの例

- 被災地で確保が困難※なお湯を企業との協働により確保することにより、避難所において足湯を実現したボランティア活動（※地震による断水、ガスの供給停止のため）など



（平成19年度 「防災とボランティアのつどい」のようす）

（5）防災ボランティア活動を深める場としての「防災ボランティア活動検討会」の開催

各地の防災ボランティア関係者が、ボランティア活動における課題や成果を持ち寄り、知識を共有化できるよう、内閣府においては、「防災ボランティア活動検討会」を平成16年度以来、開催してきている。

平成19年度においては、防災週間関連行事である「防災フェア2007 in きょうと」の一環として、8月26日（日）に、京都府京都市において会を開催し、下記のテーマについて、全体会及びテーマ別の分科会にて意見交換等を行った。

【意見交換等の概要】

- 能登半島地震、新潟県中越沖地震の被災地における活動に係る経験の共有、意見交換
- 防災ボランティア活動に係る安全衛生に関する意見交換、検討
- 県境を越える規模の大災害へのボランティアの広域連携に関する意見交換、検討
- 防災ボランティア活動の反省・教訓と活動への反映に関する意見交換、検討
など

「防災ボランティア活動検討会」の成果は、平時からの各地の防災ボランティア活動の検討の参考等のために、各回議事録等を公開するとともに、検討成果は、防災ボランティア活動の情報・ヒント集、お作法集、資料集等として内閣府の「みんなで防災」のホームページ (<http://www.bousai.go.jp/minna/>) に掲載している。



(防災ボランティア活動検討会のようす)